

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名: 中津市

項目	現状と課題	取組	目標	取組状況と実績 R4	自己評価 ◎○△×	次年度対応策 R5	備考	
							計画掲載ページ	
<p>◆自立支援、介護予防又は重度化防止</p> <p>◎項目名を記入してください。</p> <p>〈例〉 ・認知症施策 ・地域ケア会議 等</p>	◎目標を設定するに至った現状と課題(「取組と目標」を設定した背景)を記入してください。	◎第8期における具体的な取組 ・「現状と課題」に記入した課題等を解決するため、第8期計画に記載した取組を記入してください。	◎「取組」に対し、計画に記載した目標を記入してください。	◎令和4年度の取組状況と、「目標」に対する令和4年度の実績を記入してください。	◎目標に対する実績、及び「理想像」に近づいているかどうかという観点から自己評価を行い、その結果をプルダウンで選択してください。 「◎」達成できた 「○」概ね達成できた 「△」達成はやや不十分 「×」全く達成できなかった から選択	◎左記自己評価について、どのような理由からそのような評価を行ったのか、記入してください。 ・目標の達成状況に関する調査及び分析内容(達成できた背景、達成できなかった要因・課題等)について記入すること。	◎左記自己評価を受けて、今後の対応策等を記入してください。	◎「取組と目標」が記載されているページを記入してください。
オレンジカフェ	高齢化の進展により、これまで以上に認知症高齢者の増加が予想される中、医療・介護のみならず、地域で活動する多様な担い手との協働による支えあいが必要となる。認知症の方やそのご家族、認知症に関心がある地域住民の方が気軽に集まり、相談できる場所が必要とされるため。	認知症の人やその家族が気軽に集える場所を提供し、介護負担の軽減並びに地域住民への認知症への理解を広める。	オレンジカフェを年61回開催	47回開催	△	コロナ禍のため開催を控えたカフェも多く、目標には達しなかったため。	開催控えは減少すると考える。移動型やオンラインのような新しい開催形式について検討及び情報収集し、できる限り開催できるよう補助する。	12.83.90
認知症サポーター養成講座	高齢化の進展により、これまで以上に認知症高齢者の増加が予想される中、医療・介護のみならず、地域で活動する多様な担い手との協働による支えあいが必要となる。小学校・中学校で認知症サポーター養成講座を開催することで、子どもから大人まで全世代が認知症に対する理解を深める必要があるから。	認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する応援者を養成する。	認知症サポーター登録者数9,300人	登録者数8,928人	○	コロナ禍のため開催を控える団体が多く、目標数値を達成することができなかったため。	小中学校長に直接依頼し、講座開催の重要性を訴え、開催につなげる。	12.83.90
中津市認知症高齢者等SOSネットワーク	高齢化の進展により、これまで以上に認知症高齢者の増加が予想される中、医療・介護のみならず、地域で活動する多様な担い手との協働による支えあいが必要となる。徘徊する可能性のある認知症高齢者や介護する家族が安心して暮らせるよう事前登録について推進され、行方不明になった場合も早期に発見できる体制を整備する必要があるから。	認知症高齢者等が行方不明になった際、早期発見につながるよう、できるだけ多くの企業などの協力機関との協定締結につなげ、SOSネットワークをより強固なものにする。	中津市認知症高齢者SOSネットワーク協力機関数90団体	協力機関92団体	◎	コロナ禍であったが、目標数値を達成できたため。	昨年度に引き続き、本事業の意義を理解してもらい協定数を増やす。	12.84.90
介護予防普及啓発	地域包括支援センター毎に介護予防教室を開催しても、なかなか参加者数が増えないため、サロンや老人会など住民の集う場へ出向き、運動や栄養・口腔・認知症予防等に関する内容を講話している。また、週一体操教室の立ち上げにむけた運動について啓発を強化している。	介護予防に資する基本的な知識を普及・啓発するため、地域包括支援センターによる介護予防教室や相談会などを行う。	実施回数:200回 参加者数:3,000人	実施回数: 563回 参加者数: 2839人 地域包括支援センターに委託し、各校区毎に介護予防教室や相談会等介護予防に対する普及啓発を行った。また、元気！いきいき☆週一体操教室の立ち上げへむけた啓発活動を各校区毎に行った。	○	実施回数は大幅に目標を超え、参加者数もおおむね目標に近い結果となった。新型コロナウイルス感染症対策により、1回あたりの参加者数が少ない中で、実施回数を多くした取組の結果と考えられる。	今後もフレイル予防をはじめとする介護予防の基本的知識の普及や、元気！いきいき☆週一体操教室の立ち上げへむけ、普及啓発活動を行っていく。また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取組として、通いの場へのポピュレーションアプローチを行う。	11、74-78、90
住民主体の地域づくりによる介護予防の推進	週1回の体操を行う住民主体の通いの場を市内100箇所程度立ち上げることで、高齢者人口の1割程度(2300人)の高齢者の誰もが通える体制をつくれ、新規要介護者の増加抑制や介護保険卒業者の受け皿として活用できる。	支え合いの地域づくりによる介護予防の推進を目指すため、住民主体の週1回体操を行う通いの場「元気！いきいき☆週一体操教室」の立ち上げや継続への支援を行う。	実施箇所数:65か所	実施か所数:53か所 地域包括支援センターや社会福祉協議会と、定期的に会議を開催し、情報共有や課題についての協議を行った。スキルアップ研修でリーダーの育成をした。市長報告会を開催し、参加者の継続意欲向上を図ったほか、普及啓発講演会を開催し、教室がない地域の立ち上げ支援を行った。備品などの環境整備のために県や市の補助金の活用を進めた。	△	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、住民の集まりが縮小しており、新規立ち上げの普及啓発も難しく、立ち上げ箇所は目標に達しなかった。継続教室については、休止していた教室が概ね再開してきた。立ち上げから年数も立ってきており、新規立ち上げ同様、継続支援にも力を入れていく必要がある。	今後も、関係機関と連携を取りながら、新規立ち上げを増やしていく。立ち上げ箇所数が少ない校区へ重点的に普及啓発を行う。ハード面の整備として、活動補助金を創設し、立ち上げ・継続支援を行う。	11、74-78、90

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名: 中津市

項目	現状と課題	取組	目標	取組状況と実績 R4	自己評価 ◎○△×	次年度対応策 R5	備考	
							計画掲載ページ	
<p>◆自立支援、介護予防又は重度化防止</p> <p>◎項目名を記入してください。</p> <p>〈例〉 ・認知症施策 ・地域ケア会議 等</p>	◎目標を設定するに至った現状と課題(「取組と目標」を設定した背景)を記入してください。	◎第8期における具体的な取組 ・「現状と課題」に記入した課題等を解決するため、第8期計画に記載した取組を記入してください。	◎「取組」に対し、計画に記載した目標を記入してください。	◎令和4年度の取組状況と、「目標」に対する令和4年度の実績を記入してください。	◎目標に対する実績、及び「理想像」に近づいているかどうかという観点から自己評価を行い、その結果をプルダウンで選択してください。 「◎」達成できた 「○」概ね達成できた 「△」達成はやや不十分 「×」全く達成できなかった から選択	◎左記自己評価を受けて、今後の対応策等を記入してください。 ◎左記自己評価について、どのような理由からそのような評価を行ったのか、記入してください。 ・目標の達成状況に関する調査及び分析内容(達成できた背景、達成できなかった要因・課題等)について記入すること。	◎「取組と目標」が記載されているページを記入してください。	
高齢者ボランティアサポーター	サロンに参加すればポイントを付与してよいという拡大解釈がされており、H29年度に活動の見直しと指導を行った。その為、登録人数の大幅な減少があった。また、給食ボランティアやサロンでの活動がおもになっており、施設関係においてもサポーターを受入できていないところも多い。	毎年、ボランティア団体、受給者がともに減少傾向にあり、高齢者の社会参加・健康増進を図るため、ボランティアの人材発掘や新規グループの設立に努めるなど、高齢者のボランティアサポーター制度実施・支援を行う。	・高齢者のボランティアサポーター事業の実施。 ・登録予定者570名、受け入れ施設は125箇所の 見込み)	実施箇所数:110か所 登録者数:442人 65歳になる方へ送付するパンフレットやチラシの同封や社協側でイベントの際に広報等で周知を行った。 新しい人材の加入もなく高齢化に伴う解散や、新型コロナウイルス感染症対策のため給食ボランティア・サロンの休止、高齢者施設等での外部からの受け入れ中止等で、給食ボランティアで2か所、サロンで2か所、高齢者施設等で3か所の受入機関による辞退・廃止の申し入れがあり活動実績は減少傾向となった。	△	H29年度にポイント付与に関する活動の見直しと指導を行ったため、H30から登録者数の大幅な減となり、令和2年度の目標を590人に変更した。 登録者数については、サロンや給食ボランティア等がほとんどであり、個人で活動している人は令和2年度の新規1人が令和3年度は3人と増加(計10人)。 令和4年度は、個人登録(10人)していた内の1人がサロンへ移動、新たに1名の個人登録があり9名となった。 新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、受入機関の受入中止や辞退の申し入れ等もあり、うまく繋がらず、新規および更新双方にて全体的に減少。目標数値を達成することができなかった。	サポーター登録者の新規獲得のため65歳になる方へ送付するパンフレットやチラシの同封・社協側のHP広報等による周知を行う。 活動の減少傾向にある為、令和3年度に実施したアンケート調査の結果も含め、引き続き検討を行っていく。	14、75、76、90
地域介護予防活動への助成	現在は地域サロンにしか助成が行われておらず、地域サロンの数は5箇所固定化している。週一体操では、助成を望む声はあるものの、昼食が入る運営は住民の負担になる。地域サロンの増加・週一体操の時間延長、いずれにしても、住民の意欲が向上する働きかけが必要である。	住民主体で介護予防活動を行っている団体(地域サロン)に対し、活動の充実と継続を目的に運営費の助成を行う	助成箇所数:7か所 地域サロンが増える、もしくは、週一体操が体操だけで終わるのではなく、昼食をしながらの交流まで行える環境を整えることで、デイサービスにかわるインフォーマルサービスが増える。	助成箇所数:6か所 すずめの家、福ろうの家、はちどり庵、こまどりの家、つばめの家(R2)、百歳(R3年4月)が活動できている。 ※R4は新規の助成はなし。	○	助成箇所数は年々増加することを見込んでいたが、コロナ禍のため、維持するのがやっとなのである。	引き続き、地域包括支援センターや生活支援コーディネーターに協力依頼を行い、条件に該当するような活動を行えるリーダーの発掘に努めてもらう。	74、76、90
中央地域ケア会議	居宅ケアマネ全員が2年に1度は中央地域ケア会議に主に要介護1、2もしくは困難事例のプランを挙げて検討している。しかし、ケアマネが取り入れやすい助言や、認知症対応の助言に苦慮している。ケアマネがプランに反映し、高齢者の自立とひいては尊厳に資することが重要である。	地域ケア会議にて個別事例の検討を通じ、ケアマネジャー等が自立支援に資するケアマネジメントを行うための支援や地域ケア会議から見えてきた地域の課題を把握し、検討する場を設けていきます。また、人材育成や多職種連携の機能も一層努めていく。	開催回数:12回	開催回数:12回 感染対策として、Zoom併用で実施。うち、医師参加のケア会議を8回開催。Zoom併用でのケア会議を開催する中で、ケアマネへの思いの受容やスキルアップの場としての充実を目的とし、事例検討時間を35分から最大50分に延長した。生活支援コーディネーターを助言者に加え、社会資源や地域とのつながり等の点で助言を強化。認知症や神経系疾患への対応として、医師や認知症介護指導者の参加も継続。	○	令和元年度からはケア会議での検討内容がどのように還元されているかを確認するため半年後のフィードバックシートを提出してもらっている。 令和4年度より、地域課題の把握や地域づくり、資源開発を目的に、生活支援コーディネーターを助言者に加えた。 しかし、地域課題の把握から具体的な施策に繋げることができなかった。	プラン作成者向けに行った調査より、認知症関係の助言の需要が高いことが判明したため、認知症サポート医や認知症介護指導者、認知症支援員のいずれかが必ず会に参加するように出席調整。また、事例と助言者のマッチングを図る。 栄養・口腔に関しての意識を高める他、栄養・口腔面に関して具体的かつ取り入れやすい助言につながるように、栄養・口腔アセスメントを提出資料に加える。	79、81、90

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名: 中津市

項目	現状と課題	取組	目標	取組状況と実績 R4	自己評価 ◎○△×	次年度対応策 R5	備考	
							計画掲載ページ	
<p>◆自立支援、介護予防又は重度化防止</p> <p>◎項目名を記入してください。</p> <p>〈例〉 ・認知症施策 ・地域ケア会議 等</p>	◎目標を設定するに至った現状と課題(「取組と目標」を設定した背景)を記入してください。	◎第8期における具体的な取組 ・「現状と課題」に記入した課題等を解決するため、第8期計画に記載した取組を記入してください。	◎「取組」に対し、計画に記載した目標を記入してください。	◎令和4年度の取組状況と、「目標」に対する令和4年度の実績を記入してください。	◎目標に対する実績、及び「理想像」に近づいているかどうかという観点から自己評価を行い、その結果をプルダウンで選択してください。 「◎」達成できた 「○」概ね達成できた 「△」達成はやや不十分 「×」全く達成できなかった から選択	◎左記自己評価について、どのような理由からそのような評価を行ったのか、記入してください。 ・目標の達成状況に関する調査及び分析内容(達成できた背景、達成できなかった要因・課題等)について記入すること。	◎左記自己評価を受けて、今後の対応策等を記入してください。	◎「取組と目標」が記載されているページを記入してください。
包括別ケア会議	要支援認定者・事業対象者については、新規事例の全ケースを包括別地域ケア会議にかけ検討している。しかし、改善率や自立率は県下においても低い状況にある。包括職員やケアマネのマネジメント力や合意形成力を高めるための支援が必要である。	地域ケア会議にて個別事例の検討を通じ、ケアマネジャー等が自立支援に資するケアマネジメントを行うための支援や地域ケア会議から見えてきた地域の課題を把握し、検討する場を設けていきます。	開催回数:96回	開催回数:92回 5か所の包括が持ち回りで月8回開催。保険者も必ず参加した。事例がない又は人手不足により、3回中止している。	○	包括別地域ケア会議は要支援認定者および事業対象者の新規事例全事例を検討した。地域ケア会議にかけた事例はその後の評価を実施。新型コロナウイルス感染症対策によりZoomでの開催も可とした。	引き続きケア会議を開催するとともに、ケア会議の充実に向けて、実施方法等検討していく。県の伴走型支援を受けながら、改善率向上に向けて協議を重ねる。包括の管理者により、検討した事例の6か月後評価を行う。	79,81,85,86,90
在宅医療・介護連携推進協議会	地域包括ケアシステムには、在宅医療・介護は要となるサービスなので、少ない資源でも効率良く稼働させるために、医療・介護の連携推進が重要となる。	医療・介護の関係者と行政が集い、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策検討を行う。	開催回数:2回 入院時の急性期の療養が終了して退院するといった理由により、在宅において医療や介護が必要な高齢者が、在宅医療・福祉・介護が連携した必要なサービスを受けて、在宅生活が継続できる。	開催回数:2回 ワーキンググループでの成果物、事例検討会・在宅医療・救急医療連携セミナー・終活講座の開催状況、中津市施策指標マップの見える化について協議会で審議した。	○	会議は目標通りの回数を開催した。コロナ禍のため、Zoomを導入して、開催することが出来た。	協議会を設置して7年目となるので、在宅医療・救急医療連携部会を設置して、連携ルールの運用について協議する。	12、79、82、90
在宅医療・介護連携に関する市民公開講座	在宅医療や看取りに対して、市民の意識が低いので、普及啓発が必要。	地域住民を対象に、終活講座を開催し、在宅医療を中心とした地域包括ケアシステムの普及を図る。	開催回数:1回 在宅医療や看取りを行うための覚悟を市民が持つことで、地域包括ケアシステム構築に対しても積極的になる。	開催回数:2回 終活について市民公開講座を行い、50人の参加者を得た。(その他普及啓発) 8月 ケーブルテレビで放映 11月15日号市報掲載 12月 市役所市民ホールモニター上映	◎	市民公開講座は公民館での講座を開催した。	15地域を一巡したので、今後は依頼があった場合に開催する。ケアマネ等を通じた普及啓発に力を入れる。	12、79、82、90
第2層生活支援コーディネーター	住民の互助による生活支援体制の整備するため、平成27年度に「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」を配置し、生活支援体制整備事業の中で、生活支援体制の構築にむけ協議を重ね、必要なサービスの創出に努める。	日常生活圏域ごとに、第2層生活支援コーディネーターの配置(8名設置予定)	人数:10人	人数:8人 山国地区・南部地区・三光地区・今津地区・耶馬溪、沖代地区、豊田地区に第2層生活支援コーディネーターを配置。	○	令和4年度は2名増加。今後も順次配置していきたいが、コーディネーターの発掘や拠点の確保などの課題がある。	社協と協議しながら、慎重に進めていくとともに、広く「地域支え合い推進員」としての存在を周知し、理解を広げる。	13、80、82、90
第2層協議体	サービスの提供体制等の情報共有や連携強化が図れるよう、平成29年度に「協議体」を設置。今後は、多様化するニーズに対して、地域の住民やボランティア、民間企業など多様な主体による多様な支援体制も必要となる。	第2層生活支援コーディネーターの配置されている校区について設置する	設置数:10か所	設置数:7か所 南部・山国・三光・今津・耶馬溪・沖代地区に加え、豊田地区にも設置	○	三光地区では、自治区毎(15地区)に開催される小地域ネットワーク会議を活用して、その中で困りごとの把握や協議の場としている。南部・山国・今津・耶馬溪・沖代・豊田地区でも地域の協議の場にコーディネーターが参加している。	地区ごとに開かれる住民主体の多様な協議体には、コーディネーターが関わっていく。また、専門職と地域とをつなぐ協議体の開催も進める。	13、80、82、90

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名: 中津市

項目	現状と課題	取組	目標	取組状況と実績 R4	自己評価 ◎○△×	次年度対応策 R5	備考	
							計画掲載ページ	
<p>◆自立支援、介護予防又は重度化防止</p> <p>◎項目名を記入してください。</p> <p>〈例〉 ・認知症施策 ・地域ケア会議 等</p>	◎目標を設定するに至った現状と課題(「取組と目標」を設定した背景)を記入してください。	◎第8期における具体的な取組 ・「現状と課題」に記入した課題等を解決するため、第8期計画に記載した取組を記入してください。	◎「取組」に対し、計画に記載した目標を記入してください。	◎令和4年度の取組状況と、「目標」に対する令和4年度の実績を記入してください。	◎目標に対する実績、及び「理想像」に近づいているかどうかという観点から自己評価を行い、その結果をプルダウンで選択してください。 「◎」達成できた 「○」概ね達成できた 「△」達成はやや不十分 「×」全く達成できなかった から選択	◎左記自己評価について、どのような理由からそのような評価を行ったのか、記入してください。 ・目標の達成状況に関する調査及び分析内容(達成できた背景、達成できなかった要因・課題等)について記入すること。	◎左記自己評価を受けて、今後の対応策等を記入してください。	◎「取組と目標」が記載されているページを記入してください。
住民型有償サービス	地域包括ケアシステム構築のために、住民主体の活動は重要である。生活支援コーディネーターにより、住民型有償サービスの立ち上げ・継続支援が必要である。	第1層・第2層のコーディネーターにより、地区を選定し住民に対して講座を数回開催し、その後数回の座談会を開催し、さらに数回の準備会を開催し、早い地域では9か月間、遅い地域でも1年3か月ほどで立ち上げる。	登録団体数:12団体	登録団体数:10団体 大幡・沖代・北部・山国・耶馬溪・本耶馬溪・今津・南部・三光・小楠地域。新たな立ち上げ地域はなし。 豊田地区での立ち上げを目標に支え合いスタッフ養成講座を実施し、その後参加者を中心に住民座談会を開いた。	△	豊田地区での新規の立ち上げ養成講座を実施。また、マネージメントを行うマネージャーの重要性の理解を広げるための読本を社協が作成し活動の支援につなげる。また、令和4年度は立ち上がっている団体の日々の活動に関するサポートや、マネージャーに対する研修会を開催。課題として、要支援者を支える関係機関との連携体制づくりやスタッフの人材育成を支援する必要がある。	組織同士の情報交換の場を設けたり、研修会を開催。また、生活支援コーディネーターがケアマネ等の関係機関との連携を支援する。豊田地区での座談会は、今後も地域支え合い活動の意識啓発を目的に実施し、徐々に住民型有償サービス活動への理解者を増やしていく予定。令和5年度も別の地区で支え合いスタッフ養成講座は実施予定。また、活動継続のために、運営に課題を抱える団体への支援を行う。	13、80、82、90

